

日本語の対話表現

1, わかる話し

次の文章をお読みなって、何かこれは必要だと思われることば表現をご自分流に増補なさってみてください。そのうえで、なぜそのように改編したのかその理由を明らかにしてみましょう。

一〇〇年後の「日本」はどうなるの？

「出生率一・二五」。実に怖い数字なのです。このペースでいくと、一〇〇年後には日本の人口がおよそ六〇〇〇万人以下になってしまうのです。そのとき、土地はどうなるの？単純には半値になるのでしょうか？でも、きっと上昇することはありえないでしょうね。これに日本人の平均寿命は、今も延び続けています。つまり、老人ばかりの高齢化日本社会となり、これをささえる若者の生活活動は益々圧迫されることは必定で、誰にでも**わかる話し**なのです。今以上に生活が苦しくなれば、子供は生みたくない、税収が伸び悩み続ければ当然、年金制度も微々たるものとなりはしないか……。国は、自国民を本当のところ守ることができないのでは……。拳げ句の果てには、日本人が難民と化してポートビープルとして大陸中国にでも逆輸出となるかも...？小松左京原作の映画「日本沈没」のようになるやもとか...。もしくは、日本国が移民受付することにより外国人が大挙してこの列島に押し寄せてくることになるのかも...？とか。あと、数百年後には純血日本人が貴重になって最後の純血種が人間国宝になるやもしれないとか。最悪としては絶滅種としてワシントン条約認定なんてことになるやもしれませんぞとか。今のように住宅購入で高額借入れによる借金が減れば、給与収入の圧迫も落ち着き、出生率は少しずつ上がるんじゃないのかな？本当に住宅ローンの金利による生活の圧迫は大きいものがあります。経済が活性化しないのもこうした住宅ローンを払い続けている過去一〇年間で無理して購入したマイホームが家庭の支出を押さえている為に売ることまなりません。借り替えもできない人達にこの負担が無くなれば車を買って換え、美味しい食物を食べ、素敵な高級服を着て今まで我慢していた生活から脱出できるのではないだろうか？と。「ゆとり」ができれば子供だって増えるのか？子育ての社会基盤を、今は急ぎ充実して欲しいところでしょう。一〇〇年後の日本より今後二〇年後がもっとも気になる話しとなるのでしょうか。住宅需要はどんどん人気エリアに移行する一極化になるのでしょうか？つまり、土地価格が下がるから人気エリアに集中し、人気の無いところはますます地価下落になるのではと懸念しないことはありません。

話の要点は、

不動産は、値下がりします。

今後は、慎重に立地条件の土地を選ばないと好条件な取得から取り残されてしまうかもしれません。

少子化は、日本という国の社会と人を根底から変容させていくのです。

2, 話術は二刀流

日本語の対話表現の例として、松竹映画『釣りバカ日誌』のあるシーンを観察してみましょう。ここに登場する二人ハマちゃんとスーさんの公私で立場が逆転する二人の主人公が登場します。会話における二人のことば表現はまさに話術の二刀流を示唆してくれています。このことば表現

のギャップとその表情などを具に観察していきます。

見ながら、メモを取ってみましょう！そのメモを基本に話し合いをします。話し合うテーマは、「個性を磨く」とはという題を用意しておきます。

概要『釣りバカ日誌』 [アニメ映画版](#)

万年ヒラのサラリーマンである浜ちゃんこと浜崎伝助は、上司の佐々木課長に教わった釣りにすっかりはまってしまい自他共に認める「釣りバカ」に。ある日浜ちゃんはひょんなことから知り合った「スーさん」という初老の男性を釣りに誘う。しかしこのスーさん、他ならぬ浜ちゃんが勤める会社「鈴木建設」の社長・鈴木一之助だったのである。この二人の奇妙な友情を中心に、浜ちゃんの釣りバカぶりがもたらす珍騒動(に振り回される佐々木課長ほか)を描く人気シリーズである。〔出典:フリー百科事典『ウィキペディア(Wikipedia)』〕

3, 個性を磨きだそう

「人は無くて七癖、有って七癖」という諺があるように、多様な持ち味が会話のなかで息づいています。その息づかいの特徴を上記の二人の織りなす巧妙な言い回しを素材にして、ここで具体的に探っておきましょう。

意見その1 そのことで、何が表出しているのか これをあなただったらどう活かすか？